

決算説明会

業績概要・経営方針


2008年度決算

(2008年4月1日～2009年3月31日)

2009年5月13日(水)

(2009年5月28日修正版)

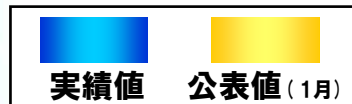
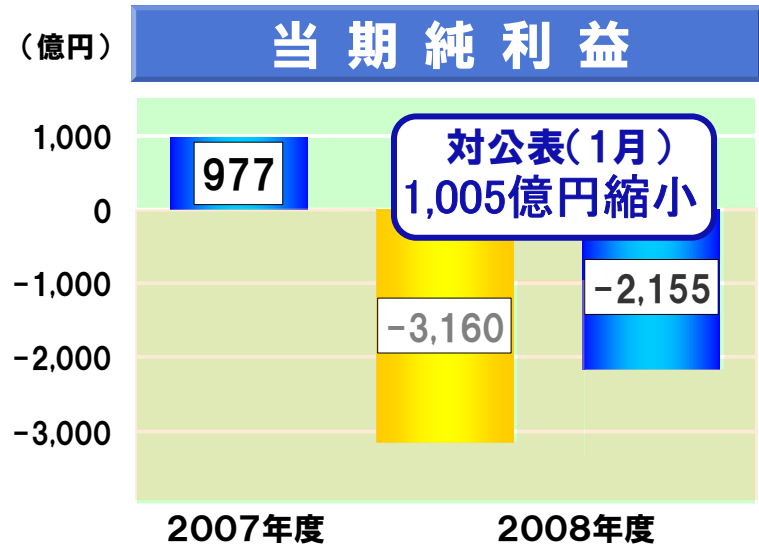
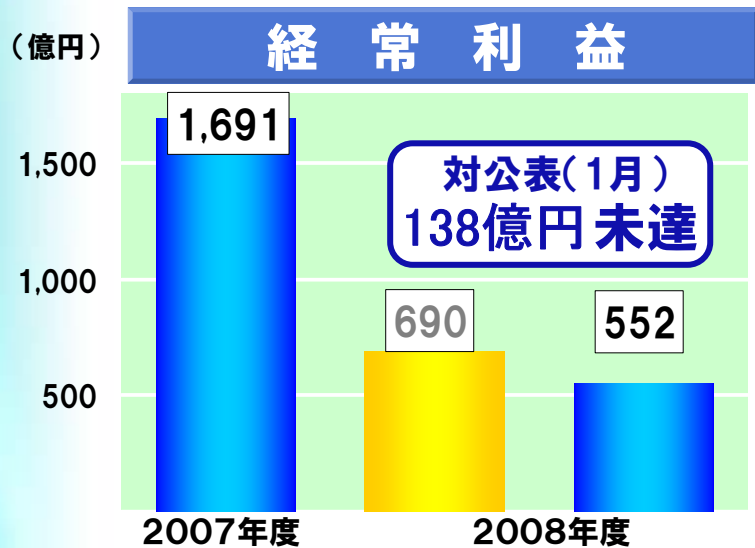
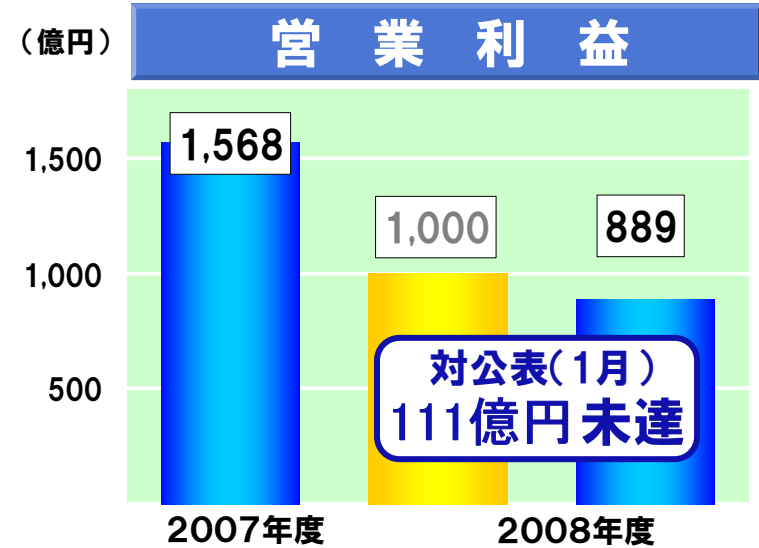
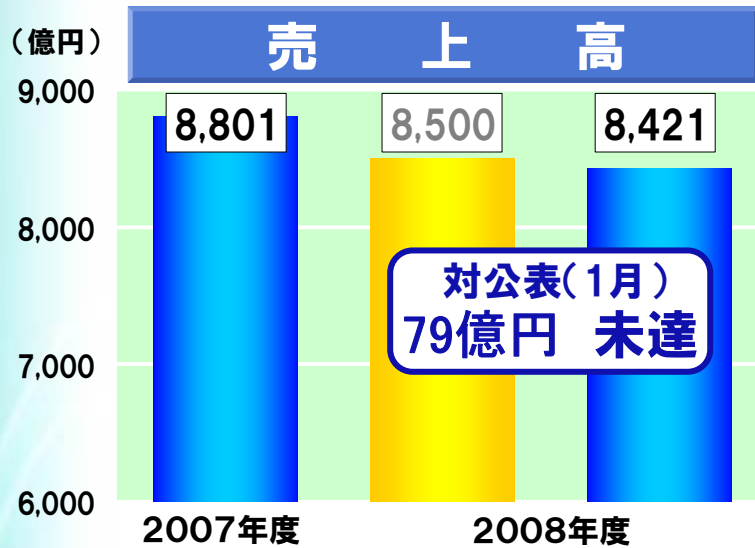
代表取締役社長 兼 CEO 庄田 隆

 **第一三共株式会社**
Daichi-Sankyo

決算概況



2008年度連結業績（実績）の概要



2008年度連結業績（実績）の概要 - 前年同期との比較 -

（単位：億円、金額上段は対売上高構成比）

	2007年度（4-3月）実績				2008年度（4-3月）実績					
	①	非医薬品 事業	欧州子会社 決算期変更	特殊要素 除外後 ②	③	単純比較 ③-①	Ranbaxy社 10-12月 実績 (US GAAP)	Ranbaxy社 のれん償却 等	除： Ranbaxy 関連④	実質比較 ④-②
売上高	100.0% 8,801	100.0% 320	100.0% 141	100.0% 8,340	100.0% 8,421	-380	100.0% 386		100.0% 8,035	-305
売上原価	26.7% 2,346	87.1% 279	25.7% 36	24.3% 2,030	25.5% 2,144	-202	53.1% 205	18	23.9% 1,921	-110
販管費	37.0% 3,252	10.9% 35	58.7% 83	37.6% 3,135	42.1% 3,543	291	38.8% 150	106	40.9% 3,288	153
研究開発費	18.6% 1,635	2.4% 8	2.3% 3	19.5% 1,624	21.9% 1,845	211	6.7% 26	69	21.8% 1,751	127
販管費計	55.5% 4,887	13.3% 43	61.0% 86	57.1% 4,758	64.0% 5,389	502	45.4% 176	175	62.7% 5,038	280
営業利益	17.8% 1,568	-0.4% -1	13.3% 19	18.6% 1,551	10.6% 889	-680	1.5% 6	-193	13.4% 1,076	-475
経常利益	19.2% 1,691	-0.6% -2	15.4% 22	20.0% 1,671	6.6% 552	-1,139	-61.9% -239	-193	12.2% 984	-687
当期純利益	11.1% 977	1.6% 5	14.3% 20	11.4% 951	-25.6% -2,155	-3,132	-42.0% -162	-2,492	6.2% 499	-452

*本資料では、2007年度までにグループ外化した非医薬品事業の業績、並びに欧州子会社の決算期変更による影響を特殊要素としてとらえています。従いまして、実質的な比較を容易にするために、これらの影響を除外した業績を特殊要素除外後として表示しております。

増減の内容 - 前年同期との比較 -

1. 連結売上高 8,421億円 (-380億円, -4.3%)

- 特殊要因 (-75億円)
 - 非医薬品事業の外部化 (-320億円) ● '07 欧州子会社決算期変更 (-141億円)
 - Ranbaxy社の'08年10-12月期 売上寄与 (+386億円)
- 実質比較 (-305億円)
 - 円高、薬価改定、販売権の返還 等の影響が大きく減収
 - 前年に一時金収入が計上されていたことも今年度の減収要因

2. 連結営業利益 889億円 (-680億円, -43.3%)

- 特殊要因 (-205億円)
 - Ranbaxy社の連結子会社化に伴う連結調整 (-193億円)
- 実質比較 (-475億円)
 - 減収による売上総利益減 (-195億円)
 - 販管費 (+153億円)
 - 海外事業基盤強化 (DSI/DSE +102億円) ● U3 Pharmaのれん償却 (+38億円)
 - 研究開発費 (+127億円)
 - ArQule社提携一時金 (+75億円) ● Edoxaban, Denosumab, CS-8958等プロジェクト費用増

増減の内容 - 前年同期との比較 -

3. 経常利益 552億円 (-1,139億円, -67.4%)

- 営業外収益の悪化 (-47億円)
 - 運用資金の減少等に伴う受取利息の減 (-23億円)
- 営業外費用の増嵩 (+412億円)
 - Ranbaxy関連 (+260億円)
 - ・デリバティブ評価損 (+148億円) ・借入金等為替差損 (+106億円)
 - Ranbaxy以外 (+152億円)
 - ・為替差損 (+68億円) ・擬似ストックオプション評価損 (+49億円)
 - ・支払い利息増 (+18億円)

4. 当期純利益 -2,155億円 (-3,132億円)

- 特別利益の減少 (-123億円)
 - 固定資産売却益の減 (-44億円) ・ '07関係会社株式売却益計上 (-87億円)
- 特別損失の拡大 (+3,489億円)
 - Ranbaxy関連 (+3,516億円) …内のれん減損 (+3,513億円)
 - Ranbaxy以外 (-27億円) … '07事業統合関連損失等 > '08臨時償却費等
- 法人税等 (-1,483億円)
- 少数株主利益 (-137億円)

2008年度連結業績（実績）の概要 - 業績予想(1月)との比較 -

(単位：億円、金額上段は対売上高構成比)

	2008年度(4-3月)業績予想(1月時点)				2008年度(4-3月)実績					
	①	Ranbaxy社 10-12月 実績見込 (US GAAP)	Ranbaxy社 のれん償却等	除: Ranbaxy 関連②	③	対予想 (1月)差異 ③-①	Ranbaxy社 10-12月 実績 (US GAAP)	Ranbaxy社 のれん償却等	除: Ranbaxy 関連④	対予想 (1月)差異 ④-②
売上高	100.0%	100.0%		100.0%	100.0%		100.0%		100.0%	
	8,500	400		8,100	8,421	-79	386		8,035	-65
売上原価	25.5%	52.5%		24.2%	25.5%		53.1%		23.9%	
	2,170	210		1,960	2,144	-26	205	18	1,921	-39
販管費	41.7%	38.8%		40.5%	42.1%		38.8%		40.9%	
	3,545	155	110	3,280	3,543	-2	150	106	3,288	8
研究開発費	21.0%	6.3%		21.7%	21.9%		6.7%		21.8%	
	1,785	25		1,760	1,845	60	26	69	1,751	-9
販管費計	62.7%	45.0%		62.2%	64.0%		45.4%		62.7%	
	5,330	180	110	5,040	5,389	59	176	175	5,038	-2
営業利益	11.8%	2.5%		13.6%	10.6%		1.5%		13.4%	
	1,000	10	-110	1,100	889	-111	6	-193	1,076	-24
経常利益	8.1%	-62.5%		13.0%	6.6%		-61.9%		12.2%	
	690	-250	-110	1,050	552	-138	-239	-193	984	-66
当期純利益	-37.2%	-27.5%		7.4%	-25.6%		-42.0%		6.2%	
	-3,160	-110	-3,650	600	-2,155	1,005	-162	-2,492	499	-101

業績差異の理由 - 業績予想(1月)との比較 -

1. 連結売上高 8,421億円 (-79億円)

- Ranbaxy関連 (-14億円)・・・1月時点の暫定実績値との差異
- Ranbaxy以外 (-65億円)・・・国内医療用医薬品 (-83億円)

2. 連結営業利益 889億円 (-111億円)

- Ranbaxy関連 (-87億円)
 - Ranbaxy社の連結子会社化に伴う連結調整 (-83億円)
 - ・IPRD (69億円)
 - ・棚卸資産利益相当払い出し分 (18億円)
- Ranbaxy以外 (-24億円)・・・売上未達に伴う売上総利益減 (-26億円)

3. 経常利益 552億円 (-138億円)

- 営業外収支の悪化 (-27億円)・・・DSI (-40億円)

4. 当期純利益 -2,155億円 (+1,005億円)

- 法人税等 (-1,078億円)

主要製品の状況 - 邦貨換算 -

(単位:億円)

商品名	2007年度 実績	2008年度 業績予想 (1月時点)	2008年度 実績				
			実績	対予想(1月) 差異	対前年同期増減		
					単純比較	実質比較	
GLOBAL	オルメサルタン <高血圧症治療剤>	1,956	2,125	2,111	-14	156	220
	レボフロキサシン <合成抗菌剤>	1,087	995	977	-18	-111	-111
	プラバスタチン <高コレステロール血症治療剤>	765	605	608	3	-156	-140
	プラスグレル <抗血小板剤> * 共同販促収入			0.3	0.3	0.3	0.3
日本	カルプロック <高血圧症治療剤>	102	130	121	-9	19	19
	アーチスト <高血圧症治療剤>	211	230	219	-11	8	8
	クレメジン <慢性腎不全用剤>	124	140	128	-12	4	4
	ロキソニン <消炎鎮痛解熱剤>	336	410	387	-23	51	51
	オムニパーク <造影剤>	312	290	283	-7	-28	-28
	ユリーフ <排尿障害改善剤>	54	85	79	-6	25	25
米国	ヴェノファー <貧血治療剤>	311	315	320	5	10	10
	ウェルコール <高コレステロール血症治療剤 /2型糖尿病治療剤>	227	250	245	-5	18	18

注: 決算期変更により2007年度はDSEについて、2007年1月~2008年3月の15ヶ月分を計上。
また、これらによる影響を除外した増減額を実質比較として表示。



主要製品の状況 - 現地通貨ベース -

		2007年度 実績	2008年度 実績		
			実績	対前年同期	
				実質比較	伸長率
第一三共 Inc.<米国> (百万ドル)	Benicar / Benicar HCT	769	869	100	13.0%
	Azor	22	86	64	287.2%
	Welchol	199	244	45	22.5%
第一三共ヨーロッパ GmbH <欧州> (百万ユーロ)	Olmetec / Olmetec Plus	261	261	41	18.5%
	Sevikar		15	15	-
ルイトポルド ファーマシューティカルズ Inc.<米国> (百万ドル)	Venofer	272	319	47	17.2%

注：決算期変更により2007年度はDSEについて、2007年1月～2008年3月の15ヶ月分を計上。
また、これらによる影響を除外した増減額を実質比較として表示。

Ranbaxy社関連トピック

- 2008年6月：複眼経営による医薬品事業戦略発表
- 2008年9月：パオンタサヒブ、デワスの2工場に対して米国GMP違反の警告状が出され、当該工場の米国向製品について輸入禁止措置
- 2008年11月：公開買付、創業家一族からの取得、第三者割当の引受を経て連結子会社化完了
- 2009年2月：パオンタサヒブ工場に対し、米国FDAによるAIP（Application Integrity Policy）が発動。⇒外部機関を含めた拡大対策チーム設置
- 2009年3月：パオンタサヒブ工場に対し、英国並びにオーストラリアの薬事当局よりGMP適合工場の確認書受領
- 2009年4月：インドにおいて、GSKに加えてRanbaxy社を通じたオルメサルタンビジネス開始（商品名：オルバンス）
- 2009年5月：AIP問題への対応を進める中で、米国においてニトロフラントインの製品自主回収

Ranbaxy社 グループ連結 - 会計処理による2008年度損益への影響 -

買収金額の資産等への配分



2008年度
損益影響

株式 取得 総額 4,883億 円	現金、在庫などの 資産・負債 788億円		BS に計上
	純資産 公正価値 458億円	棚卸資産 20億円	BS に計上、払出し時に売上原価計上
		有形固定資産(土地) 100億円	BS に計上、全て非償却資産
		無形固定資産(借地権等) 59億円	BS に計上、全て非償却資産
		無形固定資産(製品等) 410億円	BS に計上、10年で均等償却
		IPRD 69億円	一括費用計上
		繰延税金負債 ▲200億円	BS に計上
	のれん 4,087億円	資産計上し、20年で均等償却	
	少数株主持分 ▲450億円	BS に計上	

売上原価
18億円

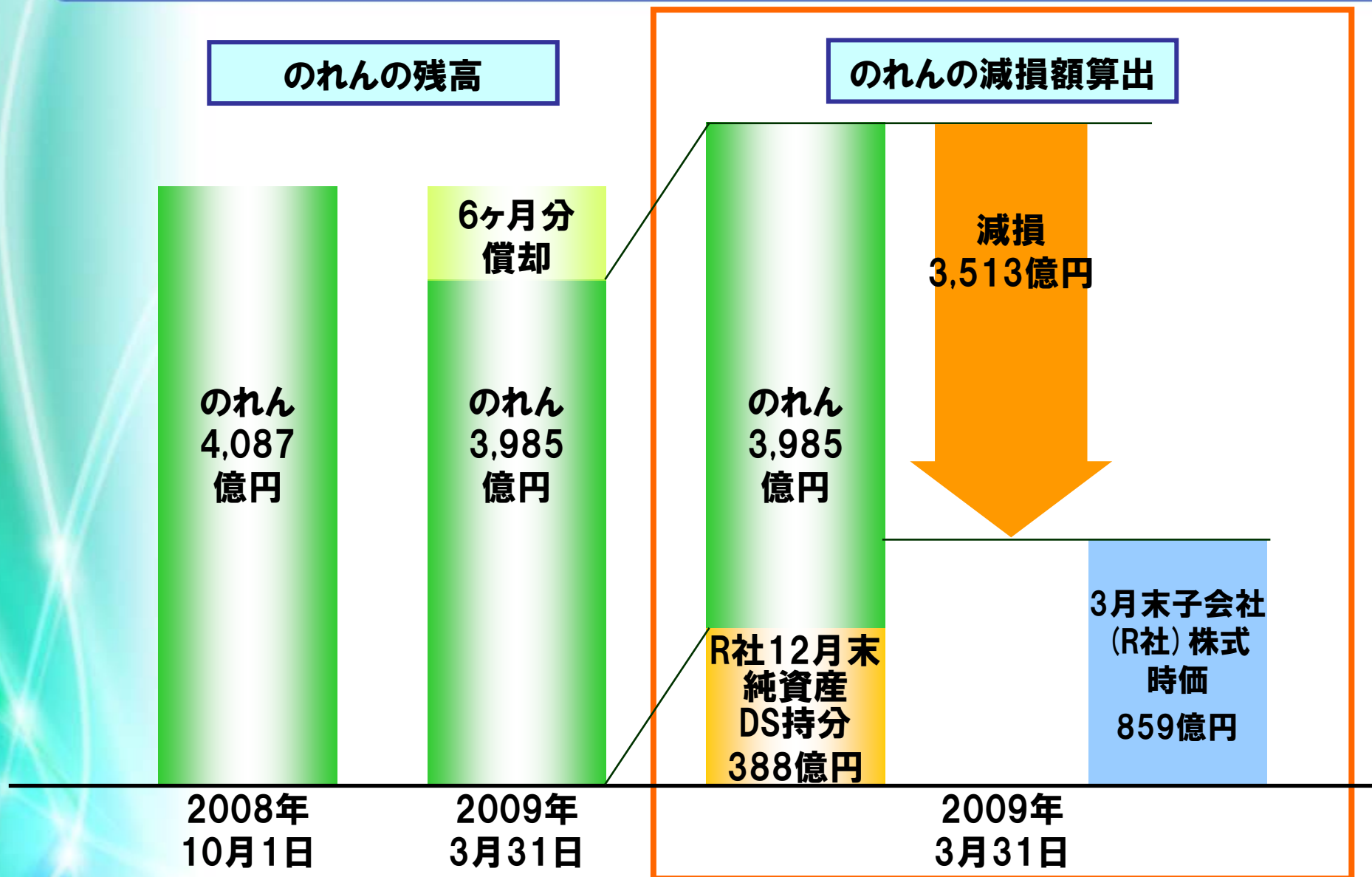
償却費
9億円

研究開発費
69億円

通常償却費
102億円

一時償却費(減損)
3,513億円

Ranbaxy社 グループ連結 - のれんの一時償却（減損） -



Ranbaxy社 営業外損益の影響

【Ranbaxy社営業外損益(10-12月)実績】

営業外収益	15億円
デリバティブ評価損	148億円
為替差損	106億円
その他	6億円
営業外費用	260億円
営業外損益	245億円

ゼロコストオプションを利用した将来想定売上に対する包括為替ヘッジ

\$ 建転換社債(FCCB)等、借入評価替等

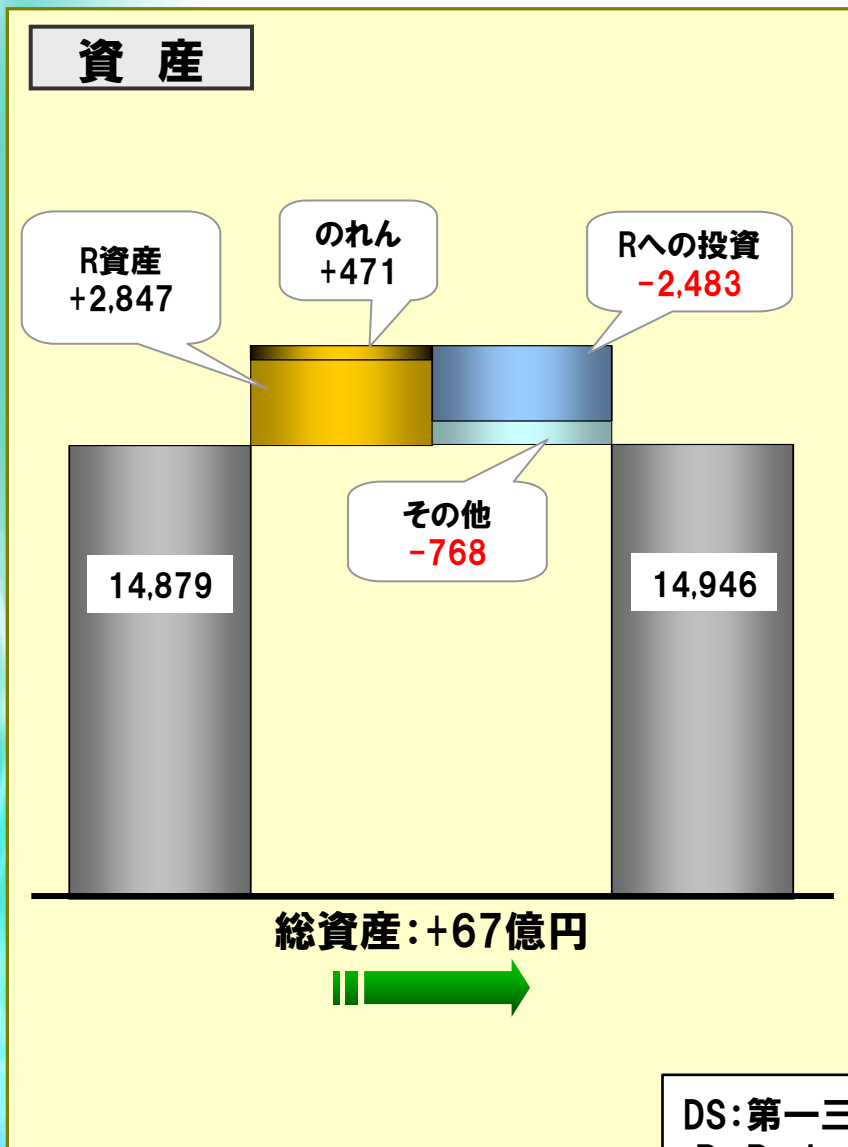
▶ ドル高/ルピー安による 営業外費用の拡大

1\$=46.1ルピー ('08.9末) ▶ 47.9ルピー ('08.12末) ▶ 50.9ルピー ('09.3末)

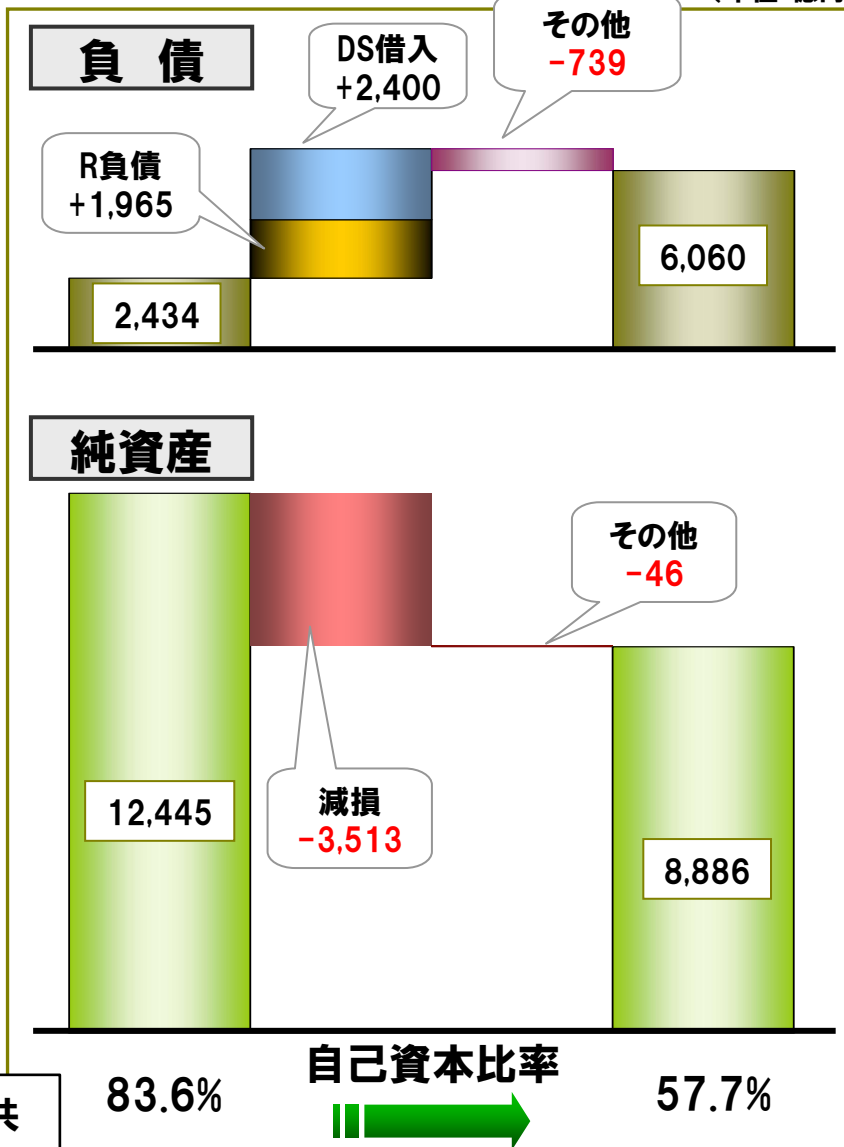


2008年度末バランスシート状況

(単位:億円)



DS: 第一三共
R: Ranbaxy



MEMO



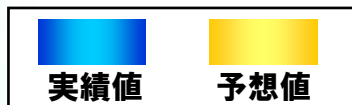
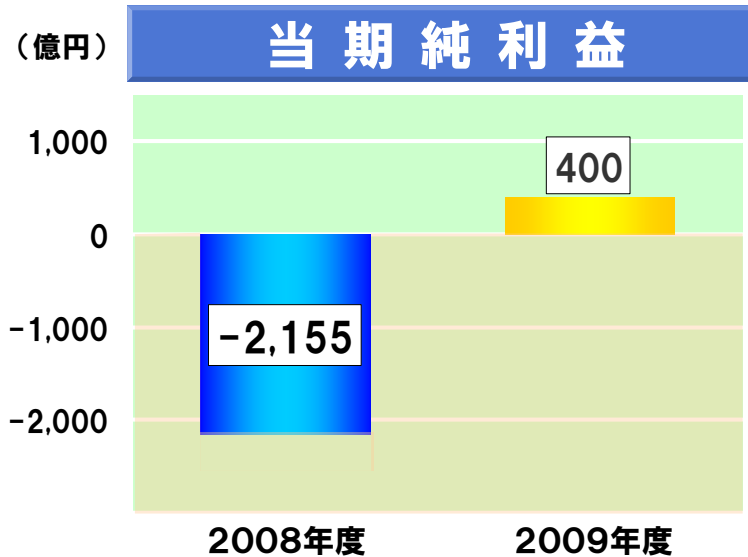
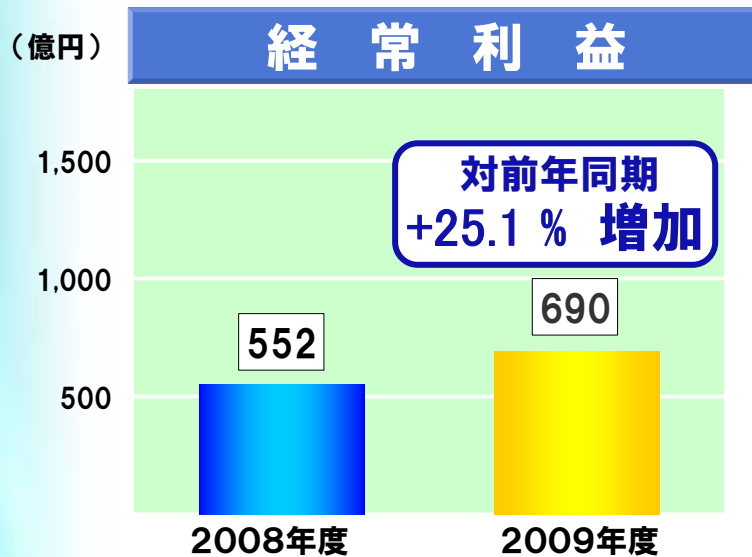
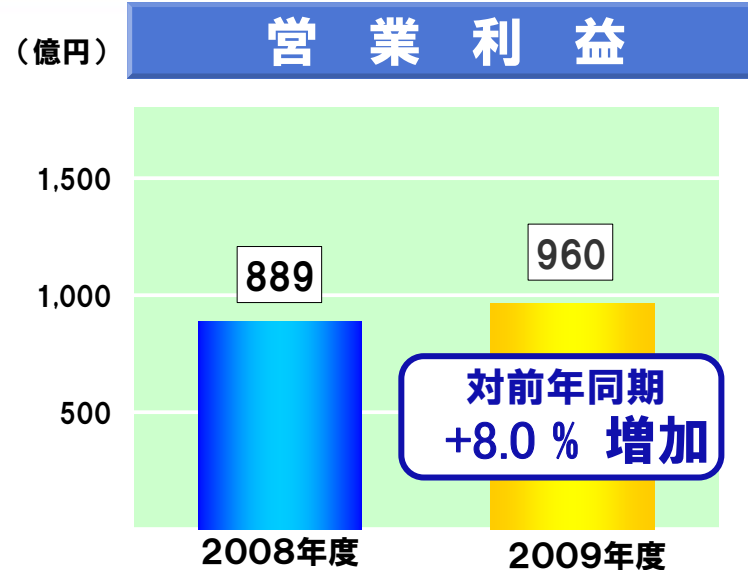
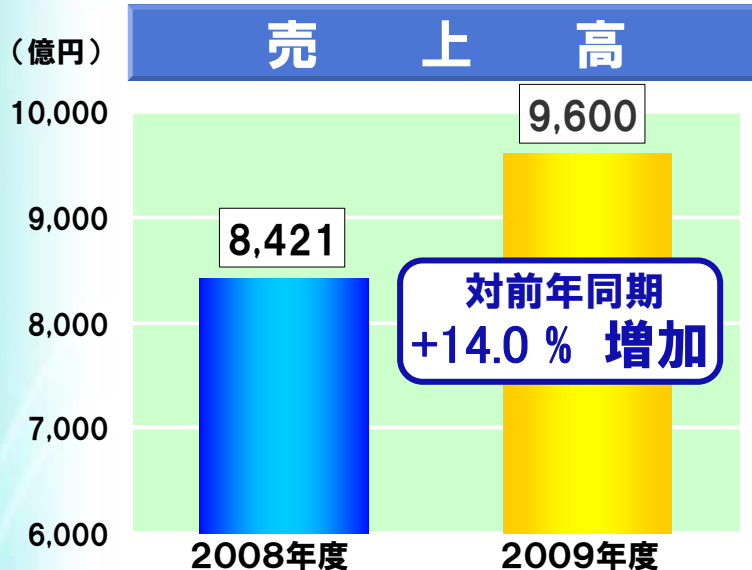
MEMO



MEMO



2009年度連結業績予想の概要 ①



2009年度連結業績予想の概要 ②

(単位：億円、金額上段は対売上高構成比)

	2008年度 実績	2009年度 業績予想	
		連結業績予想	対前年同期 比較
売上高	100.0% 8,421	100.0% 9,600	1,179
売上原価	25.5% 2,144	29.0% 2,780	636
販管費	42.1% 3,543	40.8% 3,920	377
研究開発費	21.9% 1,845	20.2% 1,940	95
販管費計	64.0% 5,389	61.0% 5,860	471
営業利益	10.6% 889	10.0% 960	71
経常利益	6.6% 552	7.2% 690	138
当期純利益	-25.6% -2,155	4.2% 400	2,555

中期経営計画未達の主要因

国内営業	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 後発品処方促進策浸透 ▶ 市場拡大再算定（オルメテック） ▶ 導入元への製品返還
海外営業	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 円高 ▶ 新製品遅延（プラスグレル、インジェクタファー） ▶ リベート率拡大 ▶ フロキシシ オティック のジェネリック上市
販管費	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 営業基盤拡充のための先行投資 ▶ 開発後期大型プロジェクト費用増 ▶ 癌関連パイプライン強化 ▶ ランバクシー連結調整費用の発生

主要製品の売上高計画

(単位:億円)

	商品名	2008年度 実績	2009年度 予想		
			上半期	年度	対前年同期
GLOBAL	オルメサルタン <高血圧症治療剤>	2,111	1,122	2,355	244
	レボフロキサシン <合成抗菌剤>	977	427	920	-57
	プラバスタチン <高コレステロール血症治療剤>	608	290	550	-58
日本	カルブロック <高血圧症治療剤>	121	70	150	29
	アーティスト <高血圧症治療剤>	219	120	240	21
	クレメジン <慢性腎不全用剤>	128	70	140	12
	ロキソニン <消炎鎮痛解熱剤>	387	240	510	123
	オムニパーク <造影剤>	283	145	280	-3
	ユリーフ <排尿障害改善剤>	79	45	100	21
米国	ヴェノファー <貧血治療剤>	320	135	275	-45
	ウェルコール <高コレステロール血症治療剤 /2型糖尿病治療剤>	245	135	285	40

*プラスグレルの共同販促収入に関する業績予想は開示しておりません。

主要経営指標

	単位	2007年度 実績	2008年度 実績	2009年度 予想
1株当り当期純利益	円	135.35	-304.22	56.82
1株当り配当金(年間配当)	円	70	80	60
配当性向	%	51.7	-	105.6
期末発行済株式数	百万株	735	709	(709)
総資産	億円	14,879	14,946	
純資産	億円	12,445	8,886	
自己資本比率	%	83.6	57.7	
純資産配当率(DOE)	%	4.0	5.4	
自己資本当期純利益率(ROE)	%	7.8	-20.5	
現金等期末残高	億円	4,443	1,778	

研究開発 パイプラインの状況



2008年度中に達成した主要マイルストーン

- 欧州EFIENT®の承認・発売
- EdoxabanのAFに対するPhase 3試験開始
- アーキュール社・U3ファーマ社と提携
- 欧州でSEVIKAR®（オルメサルタン/アムロジピンの合剤）発売
- インフルエンザ治療薬CS-8958のPhase 3試験開始
- アムジェン社のDenosumabが骨粗鬆症および癌を対象としたPhase 3試験における良好な成績獲得

➤ 2008年度第3四半期決算発表(1月)以降の変化

● 新規追加

- 3剤配合剤※(CS-8635)/高血圧症(欧):P3

※オルメサルタン、アムロジピン、ヒドロクロロチアジド

- Tigatuzumab (CS-1008)/抗DR5抗体(日):P1

- ソナゾイド/超音波造影剤(日本のみ):P2

＜効能追加:前立腺病変造影/乳腺病変造影＞

● ステージの変更

- プラスグレル/抗血小板剤(欧):申請中→発売 <PCI-ACS>

- レボフロキサシン高用量製剤(日本のみ):申請中→承認

- ヒトグレリン(日):P2→P3

主要開発品目一覧表

	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	承認申請中
循環器	・DB-772d	・オルメテック/ 利尿剤合剤 (#)	<u>・Edoxaban</u> <u>・フラスグレル (ACS-MM)</u> <u>・CS-8635</u> ・オルメテック効能追加 (#) <糖尿病性腎症>	<u>・フラスグレル (ACS-PCI)</u> ・オルメテック/ カルブロック合剤 (#)
糖代謝	・CS-1036 (#)		・リホグリタゾン	
感染症			・レホフロキサシン注 (#) ・CS-8958	
がん	・U3-1287	・Tigatuzumab ・ニモツズマブ (#) ・ARQ 197 ・CS-7017		
免疫・アレルギー	・CS-0777	・SUN 13834		
骨・関節			<u>・Denosumab (#)</u> ・ロキソニンゲル (#)	
その他		・ソナゾイド効能追加 (#) <前立腺病変の造影/ 乳腺病変の造影>	・ヒトグレリン ・メマンチン塩酸塩 (#)	・フエロン/リハビリン 併用療法 (#) ・シロドシン
合計	4	7	11	4

- ・グローバル(日本以外)で開発している課題に関しては、最も進んだステージのみ記載
- ・アンダーライン(青字)は現在の優先プロジェクト
- ・#:日本のみの開発

2009年度の主要経営課題

-第1期 中期経営計画最終年度にあたって-



2009年度の主要経営課題 ①

▶ 持続的成長に向けた収益力の強化と損益構造の改善

- 第1期中期経営計画の総括と2015年ビジョン達成に向けた第2期中期経営計画の策定
- クロスワイズ体制の進化による製品ポテンシャル最大発揮、国内市場シェア6%の回復
- 海外におけるセールスフォース強化の成果創出と生産性向上
- 抜本的な業務のあり方の見直しによる業務運営効率の徹底追求

▶ グローバル事業展開を支えるマネジメントの進化

- 地域/法人軸と機能軸によるグローバルマネジメント体制の構築
- グローバルサプライチェーン体制およびグループ原価低減の着実な推進

2009年度の主要経営課題 ②

▶ 優先開発プロジェクトの確実な推進と重点領域における創薬研究の成果拡大

- 最優先開発プロジェクトのオンスケジュールでの開発推進
- 癌/抗体領域における投資効果の発揮、研究パイプラインの充実

▶ 複眼経営の実現に向けたランバクシーとの協業体制の推進

- FDA問題の早期解決
- バリューチェーン機能の協業体制の構築
- グローバルリーチ活用策の推進

2009年度 第一三共主催 主要イベント予定

内容	日付
2009年度第1四半期決算	2009年7月31日開示、並びにカンファレンスコール
2009年度第2四半期決算	2009年10月30日開示、並びにカンファレンスコール
R&D説明会	2009年11月～12月
2009年度第3四半期決算	2010年1月29日開示、並びにカンファレンスコール
第2期（2010-2012） 中期経営計画説明会	2010年3月

本資料に関するお問い合わせ先

第一三共株式会社
コーポレートコミュニケーション部

TEL: 03-6225-1126

FAX: 03-6225-1132

本資料における将来の予想等に関する各数値は、現時点で入手可能な情報に基づく弊社の判断や仮定によるものであり、リスクおよび不確実性が含まれております。したがって実際の業績等は、予想数値とは異なる結果となる可能性があります。

つくっているのは、希望です。



Daiichi-Sankyo

第一三共株式会社